

# 「薬物乱用・少年非行との関連考察」

島 津 貞 一

## 序、はじめに

### §1. 意図、薬物について

近頃の少年非行については、教育の荒廃とか、社会構造のかよたりなどというコトバと共に現代青少年の教育問題の一方の大きい社会問題になっている。これまでこのことについては戦後何度かの社会問題として提供され、何度かのピークを示しつつ、新しい角度をもって表われてきた様相がある。社会問題としてこれまでとり上げられた特徴は、その都度、その時代の動きや社会構造の変化などとともに、あるいわ暴力行為とかあるいわ性非行とか又は今回とりあげて論じたい薬物の濫用—という風に単一の場合もあり、又混合して複雑なくみ合わせなどあって、しばらくは教育問題や健康、保健の問題にとどまらない大いさを持っているものと思われる。

一体薬物濫用という（乱用とも表現されている）ことはどういうことなのか。又濫用ということの意味と非行や教育上のそれとの関連については何を考慮してゆけばよいのだろうか。今までもそうであったように、又それ以上に今後この種の問題についてはわれわれはより一層しんけんに関心と注意を払うべきものと考えられる。

#### ○ 薬物について

ここで述べる薬物とは以下に示すものについてせつめいをしてゆきたい。

- 1) 覚せい剤 2) シンナー、ボンド等の有機溶剤、接着剤 3) 睡眠薬、鎮痛剤など
- 4) その他である。つまり医療などの正規の使

用目的や方途によらない使用、経験の場合をとりあげたい。そのうち特に今回の報告については少年の非行と関連の深い、質、量共に問題を提起している上記のうちの 2) 有機溶剤、接着剤などについて主として述べたい。

### §2. 歴史、沿革、推移

有機溶剤、接着剤のせつめいに入る前に一体「くすり」ということについて概略の一般的な話題にふれたい。未開社会の頃の原住民は宗教的な法悦や、祭礼などの場合に用いられるもの、つまり「しげき」は何だろうか。占いでもなければはらいという風の道具でもなく、恍惚、幻覚を体験しうる薬物が必ず用いられたわけで、今日いうところの「マリファナ」や「メスカリン」そして「L.S.D」などという材料である。（L.S.Dは化学者の発見によるものであるが）

ハツシュシュなどは中国、その周辺の諸国において陶酔、と宗教的体験を結びつけて用いられたといわれる。すなわち宗教的体験と薬物による陶酔はそれらの民族には必要な一つの儀式でもあったわけである。ただわれわれ日本民族の場合はより現実的で宗教的なものの関連は薄いとされている。いうなればこれらの祭礼の先祖をまつ儀式には共に生活感を味わい人間関係を結ぶという風の<sup>＊</sup>さけ、の風習—はこれまでつづいてきたというのは当然である。われわれは<sup>＊</sup>さけ、による酩酊は体験しているが、有機溶剤による<sup>＊</sup>めいてい、の体験については戦後はじめてのことであり、全く今や相当量の質的にもそれは大へんな、社会的、医学的、心理学、上の問題を提供するにいたったわけである。すなわち「幻覚」という体験—である。こ

れが非行—つまり成人でなくて少年が主役になったところに非常な問題になったというわけである。

### §3. 薬物の中に占める有機溶剤の意味

#### ○ 有機溶剤、接着剤について

さて「くすり」の話をせつめいに入りたい。有機溶剤とは化学的に述べると「常温、常圧の下で揮発性の液体で他の物質を溶かす性質を持つもので、よく使われるものはラッカー、シンナーが一般的である。ついで接着剤というのは

#### (B 表)

〈有機溶剤とは〉

有機溶剤とは：常温常圧の下で揮発性の液体で他の物質をとかす性質をもつ

有機溶剤→ラッカー・シンナー

ボンド、コンタクトボンド、ブラボンド、ガソリン、セメダインマニキュア材料、フィルムメント、同類

ボンド・ブラボンド・セメダインなど多くの同類のものがある。含まれる内容はトルエンが65%でこれが主成分、他は酢酸エチルとかブタノールとかであり、トルエンは中枢神経毒として作用する。つまり「幻覚」を体験するのはこのトルエンの作用である。

#### (C 表)

Thinner の配合の一例（メーカーにより配合は異なる）

酢酸エチル	20%	} エステル
酢酸ブチル	5%	
酢酸アミル	4%	
ブタノール	5%	} アルコール
セロゾルブ	1%	
トルエン	65%←	主成分＝中枢神経毒
計	100%	

＊シンナーを吸ったらどうなるか、でわなぜ神経毒をひきおこすのか、については専門の生理学にあづかることになるが一般にのべられるのは吸入すると肺壁について体全般に、それか

ら大脳に作用してくるわけで当然、機能の低下を示すことになる。中枢神経系——知覚も運動

#### (D 表)

有機溶剤吸引の生理作用

吸入→肺胞壁→全身循環→大脳（中枢神経系→機能低下→高等領域の侵襲→知覚・運動領の麻痺→死）

もその機能は低下し、極端な場合は麻痺して死亡する、ということになる。この麻痺が一つの体験として浸り込むということになる。「シンナー遊び」というのは、たのしむわけで、不安緊張をのぞき、いところの陶酔感を得るためにやるわけだけれども、その程度を自分でコントロールして操作出来るかどうか～これがこのシンナー遊びの問題になる。

シンナーなどを吸引する場合はガーゼに浸してやる場合、更により密にその効果をよりよく程度を体験したい場合はビニール袋をかぶって吸引する。全く危険な方法で窒息して死亡する者はこれまで数多く見られる。大体普通に使用しているのは先に述べたように単一な方法で用いるが、ビニール袋のような時の急性作用ではなく、慢性的にその害を見ることが多い。すなわち肝機能に影きようを及ぼしたり、思考、感情の変異はこれまで見られるところである。貧血は著明な症状であるとこれまでの報告はのべられている。

#### ○ 有機溶剤めいていの歴史など

1) 昭和33年～34年頃、中野刑務所（東京都）において配管工の2名の受刑者が（それまで模範囚とされていた）その仕事の性質上、ラッカーシンナーを吸うてよい気持ちになりその後看守を殴殺するような事件をおこし、逃走するという大へんな騒動があった。

2) 昭和41～43年にかけて前橋少年鑑別所に収容の少年達の中に強盗、傷害などの非行で入所している者の中でシンナーやボンドを吸引しているのが注目され、犯罪心理学会や矯正医学会等に発表・報告され問題を提供した。

3) 昭和36年大原健士郎氏の発表にシンナー

嗜癖の3例がある。<sup>註18</sup>

4) その他、数多くの報告・発表がこの時期に相前後して見られ学会で関心、注目するところになり、社会問題もより拡大してくるところとなった。

#### ○ 外国における話題について

別紹介のように日本以外にも1955年ごろをはじめとして見られる。やはり小児科医、精神科医がとりあげており、「幻覚体験」について述べている様で、アルコールを飲んだ状態のようだとものべられている。又北欧や、つまりスウェーデンにも見られるようで医者の報告するところとなっている。

(A表)

外国での報告

Andersen, Petal : Eletroencephalogram in  
Poisonnung by Lacquer thinner.

(Acta Phama col. qi 125, 1953)

Nylander. I : "Thinner" addiction in  
children and adolescents

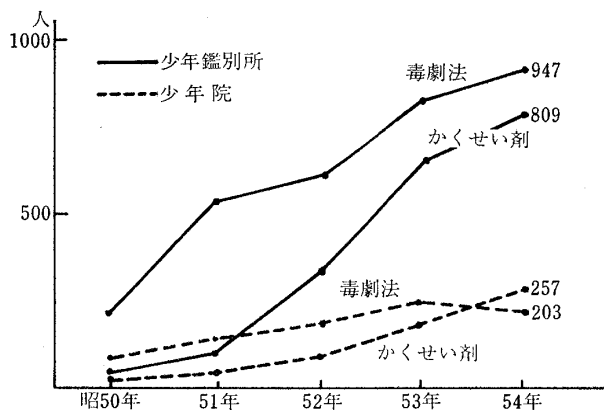
(Acta Paedopsychiatria (Basel)

29 : 273. 1962 (Sweden)

#### § 4. 薬物乱用少年についての傾向

冒頭にも述べたように戦後より今日にいたる少年の薬物乱用は、いくつかの波（峠というか）、何回かのピークをたどってきている。

(1図) 薬物非行による新収容者数



(注) 「司法統計年報、少年年編」による。ただし  
54年は「矯正統計年報」による

戦後しばらくの間は薬物副次文化ともいわれてきたが、最近の傾向は使用する少年達の「自己卑小感、社会的欲求不満、退屈、我慢ぎらい」などと指摘されている。いづれにしても何度目の波を経て、今日のこれに当る補導人員も1663人（昭和54年）にのぼっている。別表によると、その薬物関係については、特徴が歴然と示される。その男女別や、年齢別、学歴別も興味関心の多いところといえよう。更に内容にいたってはたびたび述べるように、かくせい剤、すいみん薬、鎮痛剤→シンナー、ボンドなばの変化や推移が見られる。

こうした少年によるシンナー、ボンドなどの乱用の数字的データは問題行動との関連も著明で、飲酒、家出、性経験その他となっており、いうところの今日の社会問題になり、拡大して他の問題行動も含まれるようである。

薬物乱用・少年非行との関連考察

(1表)

薬物濫用少年の特質の推移

調 査 項 目		昭 57 634人	昭 55 1,027人	調 査 項 目		昭 47 634人	昭 55 1,027人
性 別 等	濫用少年	43.3	63.5	本件との関係：あ り		26.0	38.7
	うち 男	90.5	84.7	うち、濫 用		—	32.9
	女	9.5	15.3	所 持		—	2.6
	年 齢：15 歳 以 下	14.6	16.8	そ の 他		—	3.1
	16. 17 歳	36.0	39.5	濫 用 薬 物：覚せい剤		1.3	12.5
	18. 19 歳	49.4	43.6	シ ン ナ ー 類		8.8	83.3
	学 歴：中 学 未 了	10.6	15.4	ボ ン ド 類		83.3	22.5
	中 卒	52.5	40.7	睡 眠 薬		2.7	0.5
	高 校 中 退	29.3	36.7	鎮 痛 剤		2.4	0.7
	そ の 他	7.6	7.2	そ の 他		1.5	0.1
非 行 名	窃 盗	39.7	28.8	濫 用 期 間：1 月 以 内		26.8	17.9
	恐 喝・傷 害	18.1	11.8	6 月 以 内		35.1	27.3
	強 盗	3.2	1.5	2 年 以 内		28.8	36.9
	強 姦・わいせつ	10.4	2.7	2 年 以 上		9.3	17.8
	そ の 他, 刑 法 犯	9.5	6.8	濫 用 形 態：単 独		22.0	22.0
	特 別 法 犯	3.2	31.4	集 団		78.0	78.0
	ぐ 犯	15.9	17.0	濫 用 頻 度：1 日 に 何 回 も		1.9	5.5
処 分 歴	あ り	48.1	61.3	毎 日		5.1	13.3
	うち 1 — 2 回	—	78.7	週 に 数 回		42.2	36.6
	3. 4 回	—	15.4	半 月 に 1 回		20.2	15.5
	5. 9 回	—	5.2	1 月 に 1 回		9.4	8.2
	10 回 以 上	—	0.7	そ の 他		21.2	10.2
				問 題 行 動：飲 酒		65.4	76.1
欄内の数値はパーセントである。				家 出		58.8	63.1
				性 経 験		70.0	82.1
				精 神 障 害：あ り		8.1	1.4

島 津 貞 一

(2表)

濫用薬物等別比較

(昭55年)

調 査 項 目	濫用なし	有機溶剤	かくせい剤	調 査 項 目	濫用なし	有機溶剤	かくせい剤
性 別：男	85.8	87.1	67.9	処 分 歴：あ り	40.0	60.7	50.9
女	14.2	12.9	32.1	うち 1—2回	83.1	79.2	76.0
年 齢：15 歳 以 下	17.6	19.2	3.8	3回以上	16.9	20.8	24.0
16. 17 歳	34.6	41.0	34.6	審 判：不開始不処分	6.4	5.0	5.7
18. 19 歳	47.8	39.8	61.5	保 護 観 察	39.0	35.7	34.0
実父母：あ り	62.5	58.4	67.9	短 期 少 年 院	10.0	14.0	5.7
学職別：学 生	28.2	20.5	13.2	長 期 少 年 院	13.1	18.3	26.4
有 職	44.2	42.9	32.1	そ の 他	10.3	7.7	7.4
無 職	27.6	36.6	54.7	試 験 観 察	21.2	19.3	20.8
生 計：中 以 上	43.1	45.9	50.0	不良集団：な し	64.5	43.9	44.2
中 の 下	36.8	34.7	36.5	不 良 生 徒	6.1	8.5	—
貧 困	20.1	19.4	13.5	地 域 不 良 者	8.3	18.1	11.5
非行名：財 産 犯	38.8	33.1	7.5	暴 走 族	17.0	25.0	9.6
粗 暴 犯	18.2	17.7	5.7	テキヤ・バクト	3.0	3.3	23.1
凶 悪 犯	9.5	5.0	1.9	そ の 他	1.1	1.3	11.5
交 通 犯	12.2	8.4	—	問題行動：性 経 験	62.0	78.8	100.0
ぐ 犯	15.1	16.9	15.1	家 出	50.6	61.8	55.8
薬 物 犯	0.2	14.3	62.3	飲 酒	67.2	75.0	84.6
そ の 他	6.0	4.6	7.6	無 免 許 運 転	51.9	64.9	40.4
他非行との関係：				万 引	30.6	31.1	25.0
薬物非行のみ	—	5.5	—	家 庭 内 暴 力	9.8	8.3	10.0
薬物から他非行へ	—	17.5	—	学 校 内 暴 力	21.3	29.9	16.7
他非行から薬物へ	—	20.7	—				
両 者 併 行	—	56.3	—				

薬物乱用・少年非行との関連考察

(3表) 濫用薬種別比較

調 査 項 目	有機溶剤 838人	覚せい剤 53人
濫用動機:好奇心	66.9	36.5
すゝめられて	31.7	53.8
強制されて	0.8	9.6
その他	0.6	—
入手経路:薬局・文具店	25.1	2.0
友人・知人から	61.4	72.0
未知人から	4.2	12.0
その他	9.3	14.0
濫用目的:いやなことを忘れる	20.0	16.3
遊 び	67.9	57.1
性	0.7	2.0
み え	1.7	6.1
その他	3.6	18.4
異常体験:あり	67.4	77.3
うち陶酔感	40.3	59.1
まひ感	9.9	13.6
幻 視	17.6	2.2
幻 聴	4.0	2.2
妄 想	1.9	2.2
苦 痛	4.3	11.4
家族の認識:知らない	35.2	76.0
うすうす	23.7	14.0
知っている	41.4	10.0
うすうす又は知っている場合 の家族の対応		
:何もしない	13.7	25.0
意見する	75.4	66.7
病院等へ	8.2	8.3
その他	2.7	—

§5. 少年鑑別所における状況 (その一)

○ 前橋少年鑑別所における状況

私がこの薬物関連について興味を持ったのは、多様の意味があるが、とりわけ前橋少年鑑別所で得たデータは、それまで薬物心理にいいよ拍車をかけることになった。当時あまり問題にならなかった「シンナー遊び」の少年が昭和41年、次第に入所する数が増加し、42年になって入所する少年の約20%が薬物経験、ということであった。しかもその非行と関連して精神症状をも示すのではないかと興味(学問的に)を持った次第である。

(4表) 調 査 対 象

	嗜 癖 群	非嗜癖群	計
男 子	12 (5)	20 (11)	32 (16)
女 子		1	1
計	12 (5)	21 (11)	32 (16)

(註 カッコ内はシンナー吸引時非行者の再掲)

(5表) 非 行 名 別

	嗜 癖 群	嗜癖群非	計
強 盗	1 (1)	2 (1)	3 (2)
強 姦		4 (2)	4 (2)
恐 喝		1	1
傷 害		1	1
窃 盗	5 (2)	1	6 (2)
業 過		1	1
ぐ 犯	4	1	5
計	10 (3)	11 (3)	21 (6)

(6表) 単 独・集 団 別

	嗜 癖 群	非嗜癖群	計
単独非行	2 (1)	5 (1)	7 (2)
集団非行	4 (2)	5 (2)	9 (4)
計	6 (3)	10 (3)	16 (6)

## ○ シンナー吸引による精神症状

シンナー吸引による症状については昭和41年頃よりの入所した少年のうち、21名について次のような特徴が見られた。すなわち、個人差や状態、環境などにより各種のパターンがある。しかしおよその傾向というべきものより把握し得た内容的な精神症状を述べると、

1) 自我解放感、自我感情の昂揚、陶醉感外界に対する無関心（自閉傾向か）、情緒の不安定化、羞恥のそう失、記憶力の障害、時間短縮感などの錯覚、痛覚、温度感覚の鈍化被暗示性の亢進、脱力感及び運動失調である。

2) 静かに吸引している場合は、運動減退、自動的思考、思考の表象化、又表象の亢進、視覚、聴覚の鮮明化と鋭敏化、そして視覚の狭さく化などである。

3) 動の状態の場合は、運動亢進、空間把握の失調などである。

ところでわれわれは非行とのつながりについて注目すると、そのうち、関連あるものは、

1) 情緒の不安定化、被暗示性の亢進、である。

2) 自我感情の高揚、つまり気が大きくなり出しゃばり、しつこく虚勢的になる。

3) 羞恥心のそう失、につづいて、

4) 外界に対する無関心～シンナーに陶醉し夢をみる、考えが浮ぶとそれに浸る。

これらは非行と無関係のようでやはりしげきを得たり、妨害されたりすると突然の行動変異を示している。精神症状とは異なるものの身体上各種の障害を見るところで脱力感や倦怠感などがそれである。

(7表) 非 行 ・ 分 け

	嗜 癖 群	非嗜癖群	計
兇悪・粗暴犯	1 (1)	8 (3)	9 (4)
その他の非行	5 (2)	2	7 (2)
計	6 (3)	10 (3)	16 (6)

## ○ シンナー吸引時の非行

(表5. 6. 7)によると非行別では窃盗、強姦、これと単独か集団非行かにわけてみた。シンナー吸引時非行は必ずしも集団化或いは兇悪化、粗暴化～しているとはいえない。あまり大きい傾向はみない。しかしシンナー吸引時の非行について述べたいのは次のようなことといえる。

## ○ 動機について

イ. 単純な動機（自動車に乗りたかった、アベックをかまいたかった）

ロ. 衝動的（そこに自動車がとめてあった、アベックが居た）

ハ. 被影きょう性の亢進（付和雷同性や単純な行動）

ニ. 感情しげき性の亢進（庖丁をぬすんで辻強盗をやる）

(8表) 吸引時とその他

	シンナー吸引時の非行	その他の非行	計
単独非行	2	5	7
集団非行	4	5	9
計	6	10	16

(9表) 非 行 ・ 分 け

	シンナー吸引時の非行	その他の非行	計
兇悪・粗暴犯	4	5	9
その他の非行	2	5	7
計	6	10	16

(10表) 性 格 の 類 型

	嗜 癖 群	非嗜癖群	計
発揚的傾向の目立つ者		7 (3)	7 (3)
意志欠如傾向の目立つ者	8	9 (5)	17 (9)
気分易変傾向の目立つ者	5	4 (3)	9 (4)
計	13	20 (11)	33 (16)

(11表) 非行深度別

	嗜癖群	非嗜癖群	計
高度	2 (1)	5 (2)	7 (3)
中度	6 (3)	6 (3)	12 (6)
低度	5 (1)	9 (6)	14 (7)
計	13 (5)	20 (11)	33 (16)

(12表) 交友関係

	嗜癖群	非嗜癖群	計
ぐれん隊又はチンピラ	7 (5)	× 18 (11)	25 (16)
軟派	2	2	4
孤独	4	0	4
計	13 (5)	20 (11)	33 (16)

× この中には飲酒の上で強姦1名あり

(13表) 非行性と交友関係

	ぐれん隊又はチンピラ	軟派	孤独	計
高度	7 (3)			7 (3)
中度	10 (6)		1	11 (6)
低度	8 (7)	4	3	15 (7)
計	25 (16)	4	4	33 (16)

(14表) 就業状態

	嗜癖群	非嗜癖群	計
頻回転職	6 (4)	× 10 (8)	16 (12)
安定	1 (1)	2	3 (1)
学生	0	3 (2)	3 (2)
怠惰・徒遊	6	5 (1)	11 (1)
計	13 (5)	20 (11)	33 (16)

× 飲酒の上強姦1名あり

(15表) 怠惰・徒遊より

	嗜癖群	非嗜癖群	計
ぐれん隊又はチンピラ	1	4 (1)	5 (1)
軟派	2	1	3
孤独	3	0	3
計	6	5 (1)	11 (1)

## §. シンナー吸引時の非行者について

表によるせつめいをすると

第10表は性格の類型である。

第11表は非行—非行性の深度別である。

第12表は交友関係である。

第13表は非行性と交友関係を示してある。

第14表は就業状態である。

第15表は交友の怠惰、徒遊について。

○ この少年らの特性について述べなければならない。すなわち

イ. 意志欠如的傾向が目立つ。発揚性の者にはややし癖が少い。アルコールや薬物し癖者にも類似するのではないと思われる。

ロ. 交友関係—としては、し癖者には軟派、孤独者が目立つ。

ハ. シンナー吸引と非行との関連について気になったことは、交友関係(われわれのデータでは)注目される。し癖と非行の進み具合について関連あるもの常にイコールとは考えにくい。むしろ交友に問題が多く、チンピラ・ぐ連隊などがあげられる。

## ○ 今後の問題点

1 群馬県下におけるデータによりわれわれは報告したが、地域性が著明である。

2 無関心、断絶、不信という青少年の「ところ」の特質—これが薬物乱用への逃避やぐはん行為として指摘されてよく、又このことについては今年(昭和58年現在一)の三無主義とかモラトリアム人間やその他の表現を用いてこれらの傾向にもその因をひいているし、この報告時の少年非行よりみて、「現世逃避的なぐはん行為」といわれたのが今は青少年の一般的傾向とまで指摘する人もいる。

以上のべてきたシンナーと非行についての関連を見たわけだが、一体、この常習化させる要因は何か、ということについて述べねばならない。



(16表)

男女別	男	女	計
43.—44.5 入所人員	575	46	621
シンナー経験少年人員 (延)	104	6	110
シンナー 経験実人員	96	6	102

(17表)

不適型	非社会的 攻撃型 (A)	非社会的 非攻撃型 (B)	社会的 非行型 (C)	神経症 的抑圧型 (D)	計
(I) 単独常習型	2	8	6	2	18
(II) 集団常習型	3	4	20		27
(III) 単独非常習型		1	2		3
(IV) 集団非常習型	5	3	46		54
計	10	16	74	2	102

(18表)

心理的 意味 (表より)	社交 手段 (f)	酩酊感 (g)	Reaction (h)	その他 (=)	計
常	D I		2		2
	A I		2		2
	B I	3	5		8
	C I	6			6
習	A II	2	1		3
	B II	4			4
	C II	12	8		20
非	B III			1	1
	C III	1		1	2
常	A IV	5			5
	B IV	2		1	3
習	C IV	29		17	46
計	55	18	9	20	102

(19表)

	性格情動障害	不良文化感染	家庭	職場
単独常習, 神経症的抑 圧型 Reaction (D. I. h)	神経症的 抑制的傾向	なし	家庭葛藤	順応的
単独常習, 非社会的攻 げき型 Reaction (A. I. h)	神経症的抑制的傾向, 偏執性, 気分易変性, 爆発性, 情動障害	二次的 不良交友から遠ざ かる傾向	家庭葛藤	不安定
単独常習, 非社会的非 攻撃き型 Reaction (B. I. h)	神経症的, 抑制的傾向, 意志薄弱性, 情動障害	二次的 不良交友から遠ざ かる傾向	家庭葛藤	不安定
単独常習, 非社会的, 非攻撃き型 酩酊感 (B. I. g)	意志薄弱性, 感受性鈍 い, 要求水準低, 情動 障害	二次的	家庭葛藤	不安定
単独常習, 社会的非行 型 酩酊感 (C. I. g)	意志薄弱性, 顕示性, 偏執性, 気分易変性, 爆発性, 情動障害	一次的だが 組織化の動きなし	家庭葛藤	不安定
集団常習, 非社会的, 攻撃き型 酩酊感 (A. II. g)	抑制的傾向減, 非行歴 がからんだ情動障害	二次的	家庭葛藤	不安定
集団常習, 社会的非行 型 酩酊感 (C. II. g)	抑制的傾向減, 仲間意 識, 反価値的指向非行 歴がからんだ情動障害	一次的, 或る程度 組織化された不良 グループ又はシン ナーグループ	家庭葛藤のない 者もいる保護者 対本人の関係は 顕著な対立	不安定

○ シンナー常習化させる心理的、環境的要因について——（不適応パターン）

これまでのシンナー少年の臨床経験によりシンナー吸引の様態と不適応パターン及びシンナーに対する精神的依存～との関連について検討を加えた。水島理論、ジェンキンスの考えに沿って述べると、

○A、非社会的攻げき型

主として未成熟、精神病質傾向を中心に情動障害の結果として、適応機制が攻げきの形態をとるもの

B、非社会的、非攻げき型

意志薄弱が中心で、適応機制が非攻げき形態をとるもの

C、社会的非行型

不良文化感染が中心で、情動障害もおのづからそれとの関連性から理解される。

D、神経症的抑圧型

神経症的性格特性を中心に、情動的不適応機制による直接的な緊張解発が阻止、防衛機制により抑圧又は抑制により特徴づけられるもの（神経症状の形成はみられないが、それと等価と推定される異常行為による非現実的な均衡維持がはかられているとみられる）

ついで吸引の様態には単独、集団があり、これを又常習、非常習の分類を試みた。

- 1) 単独常習型
- 2) 集団常習型
- 3) 単独非常習型
- 4) 集団非常習型

シンナー吸引による精神症状の特異性についても勿論重視される。

イ) 社会手段

交際のために行う手段で、集団の形態をとり、吸引時間も短かく精神症状も軽微となっている。

ロ) 酩酊感

直接的に情動的不適応反応や、不良感染型の反社会的行動により心的緊張は解発されているものの、社会的圧迫感をもち、それらからの開放や多幸福感を求めるようである。

ハ) Reaktion

防衛機制がつよく働き、ために直接的な情動解発が阻止され心理的な異物感となり、吸引と共に緊張解消を求める異常行為の原動力ともなりうる。

ニ) 他、好奇心あるいは型がまとまらないもの、経験の少い者——である。

§ 表～について (18, 19表)

得られたデータについてのせつめい

〈結果〉

A I … 2 人	B I … 8 人	C I … 6 人
A II … 3 人	B II … 4 人	C II … 20 人
A III … 0 人	B III … 1 人	C III … 2 人
A IV … 5 人	B IV … 3 人	C IV … 46 人
		D I … 2 人

§ し癖の心理機制について

常習型は重要と思われるので更にその心理的依存について以下のようにみられた。

D I ヘタイプ……性格傾向は神経症的で抑制的、家庭内葛藤もあり生活状態や行動はまじめ。孤独、ひそかに人目をさけて吸引、緊張解消を求める。

A I ヘタイプ……感情、攻げきの、家庭内葛藤や職場葛藤はつよい。敵対、拒否、緊張がたかまりやすく、シンナー吸引により、不良交友～よりもはげしい緊張解消をとまなう。

B I ヘタイプ……意志薄弱、受動的、家庭内葛藤、反発がある。しかし抵抗力乏しく、依存的、いつも不満の表出、不満感の代償として吸引にふける。

B I ロタイプ……意志薄弱、意欲も低い、楽天的、なやむことは少い、怠惰、軽いたのしみに不満解消。

C I ロタイプ……不適應の型は顕著ではなく不良感染優位。

A II ロ……社会に対してやや拒否的、不良集団に属し、能力やや低下で安定せず。

A II イ……ぐれん隊様攻げき発散は感情的ではない。発散は不良行為へ。

B II イ……低能力で不良交友に代償を求め

ている。ひまつぶし、徒遊。

CⅡイ……殆ど徒遊、不良グループの一員でシンナー雰囲気、仲間意識をたのしむもの。

CⅡロ……殆どがシンナーグループの中心か常習者との結びつきはつよい。葛藤は軽い、代償はグループとシンナーへ求めるタイプ～となっている。

(その二)

○ 東京少年鑑別所における状況(20表)

概ね、これまで述べた状況や特徴に加える(前橋少年鑑別所の状況)ともいえるが、下記の如きものが調査でみられた。

○ 共同型、単独型の2つにわかれる。

この2つの型の体験や行動の変化などについても類似している。

○ 2つの型の各種の比較・検討についてみると、注目されるのは精神病質傾向が数多くみられる。共同、単独型共に著明というのは問題と思われる。

○ 基底性格の主要類型

ただ共同型の方が爆発、気分易変、情性欠如型(非行少年に多くみられる)が多く、単独型には気分易変になりやすいのが注目される。これらを通じて「意志がよわい」といえる。

◎ 有機溶剤酩酊の型 (20表)

	病 前 性 格	ロールシシヤッハ	酩酊時の気分	体 験	性格変化	行 動 の 変 化
共 同 型	抑制欠如爆発 気分易変	FC CF+C M↓	発揚(焦燥)	主に気分の変化 夢(+)	(+) (±)	抑 制 欠 如 ↓ 非 行
単 独 型	孤 独 内 向 夢 想	M↑(H)↑ △%(↑)	不関(不安)	夢(幻覚) (+)	(+)	無気力化 フーテン化 学業怠 職怠

○ ロールシャツパテストについて

単独型の方が反応数多い、人間運動反応も注目される。又架空人物反応、架空動物反応が多いようである。内向、孤独、夢想的であるとも。社会的にアクティングアウト、ということについては少いようである。共同型は爆発、気

分易変、性格がつよい——という傾向が見られる。

○ 乱用のありかたについて

シンナー、ボンドの両方を用いるものは、単独、共同ともにほぼ同じである。少年らの話で

(21表) めいてい時の体験

	第Ⅰ群 (共同型)		第Ⅱ群 (単独型)		計	
	N	%	N	%	N	%
ミユメの体験	5	27.8	13	76.5	18	51.4
抑制欠如	8	44.4	10	58.8	18	51.4
時間体験の異常	2	1.11	2	11.8	4	11.4
自我意識の障害			3	17.6	3	8.6
覚せい後の健忘	7	38.9	6	35.3	13	37.1
妄想気分			4	23.5	4	11.4
関係観念			2	11.8	2	5.7

は、シンナーは蒸発は早い、ボンドの方が少量ですむし、経済的でもあるし又シンナーはのどを傷めるということのようである。＊し癖化、についての比較も大した差はないようである。なお共同型が抑制欠如から非行へと向うのに対し、単独型は無力、不関になり退学や仕事をやめたり、徒遊という形をとるようである。

○ めい酩時の体験について（注21表）

甘口、辛口といったりするのも各人の好みによるもので、使いなれたりすると気が大きくなったりして、非行へのきつかけともなっている。

同じくめいていの状態における著明なことは、＊ユメ、の体験～幻覚を伴う一種のボウーツとした状態へとなっている、そのうちの共同型は27.8%、単独型は76.5%が＊夢の体験、という高率を示している。これは興味ある傾向で十分その精神症状のあり方を示していると思われる。

更にその体験の内容をみると、幻視・幻聴を示している数は著明で又白昼夢もあり、いづれにしてもかなり興味深い調査結果と思われる。

○ 非行との関係

表に見られる如く、興味あるデータであり単独・共同の差はあまりない。

以上にみられるように、東京における状況は主として新宿駅付近の広場を主として、喫茶店などに屯して、何か自由に生活をしたいという気持を持っているものの様である。

（その三）

○ 最近の少年における薬物濫用について

表を見ていただきたい。昭和47年と昭和55年の比較によるとその増加のパーセントは明らかである。（1図、1表）特に注目すべきはシンナーはその10倍近くになっていること、女子が増加している。その濫用期間が2年あるいは2年以上というのが増加し、毎日が倍以上、というのは驚くべき数字である。ただボンドの使用が減り、非行も強盗、強姦などの事犯は少くな

っている。ついで以下のように、精神障害、濫目的について見ると、

○ 精神障害

この点については減少してきている。この減少ということは、一般の精神的に問題を持たない少年達が用いることになりはじめているのか、すぐに判断は下せないと思われる。

○ 目的について

昭和47年には「暇つぶし、快感、なやみを忘れる」などとなっていたが、昭和55年には「遊び」が65%「嫌なことを忘れる」が20%という風に変化してきていることは見のがせないところで、現実逃避の最たるものといえる。

○ 濫用動機など

「好奇心」というのは代表的な因を示している。異常体験——のうち、陶醉感、幻視というのはこの頃でも著明な傾向を示している。

○ 濫用少年の類型について

昭和55年、全国少年鑑別所における濫用少年の各種の類型別の特徴を見るのは興味あるので（1表・2表）のように示した。この類型から見ると、有機溶剤の濫用においては一過性から濫用が進んでいるか、濫用が進んでいれば濫用態様は集団か単独かが又（かくせい剤濫用少年においては同じく単独か集団か、集団ならば暴力団の関与の有無が重要な）着眼点になる。

○ 昭和47年の研究の中で樋口幸吉博士らによると、わが国の薬物濫用の特徴を以下の如くあげている。

- 1) 遊び半分、面白半分の目的の者が多い。
- 2) 濫用仲間との接しよく、誘惑、半強制などが感染の根源になっている。
- 3) 仲間は有機溶剤は不良交友関係、かくせい剤では暴力団である。
- 4) 濫用の進んだ者の中には、現実逃避、社会不適應の心理機制による者。

5) 同じく、精神的異常性のつよい者もあるが、付和雷同、軽佻性、一過性に経過する者が多い。

6) 他薬物への移行の可能性があるとして供給や仲介者に対する法的規正の強化に対して、濫用者には疫学的対策が重要であると指摘されている。

今、この調査をみて、基本的にはその特徴は変化していない、どころか一層拡大しているようである。社会病理学的な意義を強調しなければならぬのであろうか。

#### (その四)

##### ○ 事例 I, 18歳

(生育史) 東京生れ、後埼玉県内に移住、小学校は普通、中学校3年時にシンナーを吸引、7・8回の補導、卒業後高校機械科に入るが怠けて中退。店員になり徒遊、家出、又トルエンを吸引、家裁不処分。山梨県下の土建業につとめ、この間シンナー吸引の繰返しで再び補導数回。東京池袋の喫茶店につとめるが1~2ヶ月でやめ再び山梨へ。ここでも交通違反(自動車の)、家出。

(非行) 上記の如く、<sup>\*</sup>毒劇物違反、単独ビニール袋で吸引<sup>\*</sup>道路上車の中で、<sup>\*</sup>道交法反、250cc.のバイクでマフラ外し、2~3回補導とで不処分2回、保護観察1回。

(家庭) 父43歳酒店の従業員(ただし東京に出稼ぎで時折山梨に帰る)酒乱、母44歳、家事、口うるさい、弟中3。

(本少年) 164cm, 54kg, 体普通, IQ99, 不安定性, 自己中心的, 無気力, 軽卒粗野な言動, 偏りの大きい少年と——鑑別所の診断。父との間は不良, 不信感, しつけ不足。S. C. Tでは厭世感をのべ、何をしても人間はつまらないと。異性との交際Y子との関係は深入りしている。処遇異針としては、1) 現実遊避感の是正, 2) 父との不信感からの脱却, 3) 自己のペース中心からの検討を。この少年は家庭裁判所で中等少年院送致の決定をうけた。

(経過) はじめは院内で周りの人との不調和感あり、自己顕示で、本科に入って内観法実

施、父親像、自己像についての内省をしつつ、退院後の誓約について上記2~3についての遵守を守らせることになる。

#### (保護観察の状況)

- 1) 自動車教習所へ通う
- 2) 訪問時にはいつもまじめな生活態度を見せている
- 3) 不安感あり、母にも指導の必要
- 4) 父、やはり未だ放任がち
- 5) その後やや良好に転ず
- 6) 吸引もせず、暴走グループとの交際は無い、ただしまだ自己中心的、やはり問題の中心という重要な点は父母と本人との人間関係に処遇の鍵があることを確認する。

1) ついで2) 性格のよわさ, 3) 自動車に対する執着は依然つよい。4) 仕事は未だし、しかし余暇の利用、家庭環境の改善について指導などがおこなわれた。

後日の報告では残念ながらY子との交際切れず、自分の車にガスを引込んで車中心中をとげた——と「ケースワーク」を終了した後報告があった。

#### (その五)

○ 事例(参考) (興味ある所見なので成人のケースだが記してみたい)

31歳, 放火同未遂7年刑, 初入, (中略) シンナーの吸引は、同年2月頃からはじめたが、シンナーのことはテレビで見て知っていた。自宅には父が製めん機械をぬったり、兄がステレオを作った時に使って、のこりのシンナーがあり、それをビニール袋に入れて吸っていた。

はじめの1~2回は吐気、苦味がしたが、それ以後吸ったあとは量にもよるが、部屋が揺れ動き、赤い色を主体に紫色、ピンク色など、メキシコオパールかプリズムを見るように眼前に次々と変った色が見える。

シンナーを多量に吸ったときには特に強く自分が真赤の炎のような色に囲まれ、その炎の中で体が浮いたり沈んだりして非常な快感をおぼ

えた。何か自分が火をつけたような感じになる。

特にシンナーによってその気分よりうすれてきたときに、再びその気分を味わいたくて火をつけたくるようになった。

発火装置は自宅を整理して、そうじした時にボール箱や蚊取線香、花火などいろいろな物が出てきた。それらを使って銀皿の上で装置をつくり、何回かつくり、又失敗もありすてたりした。

その夜も少量のシンナーを吸ったが赤黄色がチカチカと眼前でゆれているように見えていた、それで掃除をはじめるつもりで整理していたところが白い小箱があり、その内にボールペンを立て蚊取線香の中心部にさしこみ下して花火の火薬をはぐして紙につつま、マッチと共に箱に固定して箱の外にボロ布をたらしてビニール袋に灯油を入れ布を浸し、線香に点火して家を出た。置場所をさがして歩いていたが、～人の足音がするので急いで植木の塀の上において逃げ帰ってきた。はじめなので燃え上がるのも思っていなかったしその後入浴してねてしまった。寝る頃には忘れていた位で、翌日も気にもならず見にも行かなかった。(中略)

‘赤い炎、の内に自分がおるような気分になりはれたいとする。又行きかえりには人に見られないよう特に知合いにあわないかと注意した。放火する場所の選定は一度も下見をしたこともなく、大火にならないように見つけ易い場所を条件にした。もえる炎を見たいとか性欲亢進するなどということではなく、見つからないように置くとすぐ帰宅し翌日も見に行くこともなかった。

一度だけワイシャツの空箱に蚊取線香灯油を装置して持出したが、板壁に立てかけ点火して帰ってきた時があり、翌日心配になり早朝見に行ったことがあるが燃えずにそのままになっていたので近くの林の中に投げ捨てたことがあった。

～悪いと思ってやめる、そんなときはシンナーを多量吸引して寝込んだ。I Q97。

以上は成人のケースだが、シンナーによる幻想めいた考想の遊離や、現実との境の不明な気分影に影きようをうけての犯行である。放火——色——シンナーの七色、幻想。文学的表現めいているが犯罪事実の自懐である。

#### (その六)

##### ○ シンナー等乱用少年たちの座談

これから述べる少年たちのシンナー等を乱用してきたこもごもの感想、座談を綴った経験者のなまのはなしを参考としたい。

(動機) 友だちに誘われてやった、好奇心もあって先輩にやってみい、といわれてやった。これやるとユメみたい、よい気持ちになるといわれて、天国でわないけれど、女と遊んでいるよりも気持ちよいと。

(感想のあれこれ) あれやるとバカになるのでわとか、ハラが減って腹がくちくなる。仕事もおつくうになる。ケンカ早く、乱暴にもなるし、なれてくると吐気や不愉快な気持ちにはならない。

(変な行動) あるとき田圃の中で泥だらけになっていた。ぶったおれ、20分位、効いていたのか? あたまおかしくなるし、ボーッとする、サケとの酔い方が違う、シンナーは黙ってしまう、さけはよくしゃべるが。風呂に入ると体がネバネバする。がっくりするね、あれはなれてくるとタバコみたいに中毒になる～シンナーだけじゃ酔えないときもある。サケの方がよいと。

(内容) 貧血おこすのではないか、白血球が少くなり、子供が出来なくなるとも聞いている。シンナーやる前は貧血なんかなかった。フワフワと全然手がつかない。感覚が鈍くなり、痛みが少しずつなくなる、けれど歩きたくなる。目的もなく川っぺりやデパートへ。女の化粧品のところへ行ってしまう。眼付きが悪くなる、声は大きくなる。舌もつれる、(これはサケと似ている、と) 孤独が好き、けれどイライラも笑い上戸にも——と。

サケは口が軽く声大きくからんだり、腰とられたり、ご寝てしまう。シンナーはそんなこと

はないですね、夢中でやっているのではないか。

(数量その他について)

一日に 100~180cc, 1本を 5~6時間 でやる, 他の少年も 1日 270cc を 1本 5~6時間 もやって, 6分目位のむ, という。

甘口, 辛口があり, 「コロナ」は一番 うまい, アンドー製はまずい, でも人体無害と書いてある, と。大体辛口はまずい, キングポイント は辛口, アトムはまずい方だと。

(シンナー友達)

太田にシンナーのしんじという人がいる。前は肥っていたのに, 今は骨と皮みたい。あれはシンナーのせいだ, 中毒になると 2-3里でも自転車で買いにゆく, やらずにおれなくなる。

(サケとシンナーについて)

シンナーからサケ, 又シンナーへと, とにかく正気ではやれない。シンナーの時は記憶が鈍る, 忘れものする, サケはそんなことはない, はっきりしている。

(今後またやるか?)

今までもう 10回もやったかな, 中毒になる心配, あったけれどもダメだな又やりたくなる, どこかの施設にでも入れてもらわねば一と。娘さんをヒヤカしたのに, あれおばあさんだといわれて, 又捕ったとき包戸ふりかざして~おぼえてない, 金あればサケだと思っているが, 車衝突して向きが反対になっているのを云われて, よくおぼえていない。まあとにかくシンナーはぐれた人, やはり不良みたいな人だな, 誰でもやれるものではないし~シンナーのほかにくすりあるのか? (ハイミナルとかナロンとかの) まあなかなかですーという。

## §6. 薬理学的な立場よりみて

シンナーなどを常用した場合, これをどのような有害性, 予後の危険性などについて, 薬理

学の立場から田所助教授(当時)のくわしい報告がある。これを紹介すると,

A) 成長が抑制(あるいは阻害)され, 成長期の青少年の成長が著しく阻害され, 体重の減少もはなはだしく, シロネズミの実験でも成熟したネズミはさほど問題はないが思春期のネズミは相当阻害されているのが明らかである。

B) 血液にも変化がくる, 貧血, 白血球の減少がおこり病気にかかりやすくなる。

C) 性現象にも変化がくる, 性周期の変化から見られる周期の中断があったりする, 又あとで調べてみると子宮の重量の減少がみられる, オスのネズミにおいても精囊や前立腺も萎縮している。

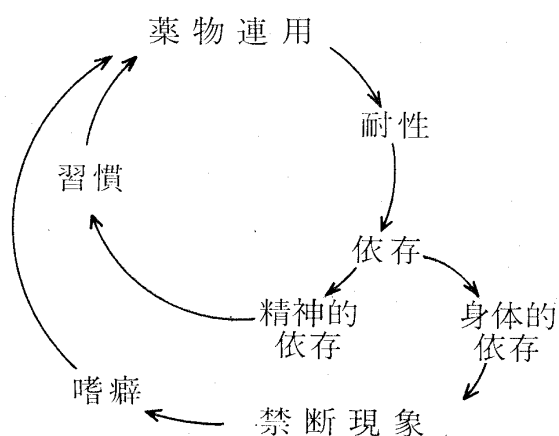
D) 内臓もおかされる。

肝臓, 腎臓, 副腎などの諸臓器に障害があり, とくに肝臓など(ネズミの)は肥大している, 又副腎も同様である。

E) 耐性について

サケにつよい人は麻すいにかかりにくいのはよく知られているが, このくすりを繰返していると, その量を増加しないと効果がなくなることがある。さてシンナーなどはどうかというと副作用には頭痛, 悪心などを訴えているが, なれると軽減して行くようである。これは軽度ならば耐性が出ているのではないかと思われる。

(E 図)



F) 依存性と精神障害

依存というのは身心がくすりにたより, くすりにつよい欲求が生じ, くすりをやめることが

出来なくなる状態で、麻薬、すいみん剤、かくせい剤、又鎮痛剤のあるものは依存が出来やすい薬物として特に注意される。シンナーにおいてもこれらの中樞神経系に作用するものとして考えねばなるまい。

また、依存には心理的（精神的）依存と身体的依存の2種があり、後者の依存が生じたときには中断によりはげしい禁断現象が生じますます薬物からは離れにくくなり、習慣やし癖という悪循環が形成され、非行・犯罪と結びつき、精神障害の発生しやすい状態になる。シンナー乱用時は比較的早く精神的依存が生じるが、身体的依存はつよくはない、ただくり返しによる精神障害の可能性には考慮しなければなるまい。尚更「シンナー遊び」というのは放置することは十分考慮すべきである。

## §7. 精神衛生の立場よりみて

歴史的にみて古代エジプト時代より医療目的以外に用いられてきている、その歴史的に又民族史的な角度より薬物乱用に入る期とそれ以後の大きな転換をみることになる、が逸見助教授（当時）の報告も大いに参考になるので紹介したい、すなわち、鎮痛目的としては15世紀以降にあったものが、19世紀に入って「美の探求、などということ詩人のボードレールらがハツシユシユを使ったことから市民にも用いられ、一般の社会問題に拡がって来た経路をみせている。その後アヘン戦争を境に、又第二次大戦後、国際連合のWHOが中心になってこの薬物のコントロールをやることになり、これは国家間の問題という具合に拡大してしまった。つまり個人のたのしみ、遊びから政治的なレベルにまでなった状況を示している。

### （薬物乱用の定義）

し癖——個人的・社会的に害のある一時的あるいは慢性薬物中毒の状態をいう、（何とか手に入れよう、量が増えてゆく、いらいらする～）又、くり返し薬物を使用することによっておこる状態、（周期的であろうと継続的であろう

と）。今専門家により、乱用、依存、中毒、など検討中という。それで今1964年のWHOの会議で一つにまとめて薬物依存と呼ぶようになった。

### （わが国における薬物乱用について）

徳川時代からアヘンの吸引があったことは誰でも知っている通りである、その後明治、大正になり、白粉（鉛の入った）を用いたために、その神経炎を止めるためにアヘン系の薬物を使っていた、今シンナーは、睡眠薬遊びなどと共に全く新しい形で社会的話題になり、これが犯行に、非行の問題になり、ひいては精神衛生の課題になってきたわけである。

### （シンナー遊びというコトバの意味）

シンナー吸引は女子に少い、しかしすいみん薬や鎮痛剤使用は女子の方が男子より多いのは何故であろうか、夢想的とか積極的、能動的に使用するというのではなく、女子は受動的に苦痛を消し去ろうとの意、であろうか。これは人間理解の上でも生物学的なものの考えよりしても大いに興味あるところである、ひいては、今後の問題として臨床心理学あるいは病態心理学の大いなる課題としても考えられてよい。つまりシンナー等の乱用者は、われわれ精神衛生や臨床心理の学問をする者にとっては重要なテーマを与えてくれるものである。

## §8. 薬物心理を研究することについて

心理的效果を目的として薬物が使用されたのは当然古い歴史が物語っている、ただ、近時のすいみん剤やかくせい剤などは比べるとその歳史は新しい。ただ心理的效果についての記載は未だ歴史は浅く、われわれにとって知られているものとしては E. kraepelin の研究である。又メスカリンなどの研究などもよく知られているところであろう。われわれがシンナーなどを主として、この非行ある少年や成人の犯行時あるいはそれが動機となったかはいろいろの要因もあるが、人格の統御機能の観点からではない



が特異な行動をとる場合に、どのように薬物がその効果を示しているかどうかは大いなる興味と関心が持たれたわけである。薬物の効果は個人によって異なる現われ方をするのは勿論のこと、個人内においても様々の効果を示す事実がある。これらの薬物の施与条件に伴う反応の変化を厳密に吟味した研究は少い。シンナーなどを例にとると、

1) 施与量…量によって反応は異なった結果を示す。

2) 施与薬物の数…単一の場合と複数の薬物の組合せは更に効果は複雑になる。

3) 施与の頻度…累積効果と逆にその効果の相殺される場合がある。

4) 施与の速度…生体内に循環する時に変化の多いことも当然である。

5) 薬物自体の化学的構造

又、効果の影きようを与える他の要因には経口か静脈注射か、皮下注射かなど、又シンナー吸引などのようにガーゼにつけて、これを口・鼻より吸引するとうい方法も大いなる要因であろう。これらについては大山正晴氏のくわしい資料より紹介したが、心理学的にみてその効果の測定など又、どの心理側面に影きようを及ぼしたか、これからの人格解釈に大いなる課題になるものと注目したい。

## § 9. 対 策

シンナー、ボンド等に対する今後の取り組み方について

麻薬犯罪などのような問題とはその基盤や歴史、又法解釈上の点は異なる。しかし、この有機溶剤が少年の非行に関与し、少なくとも身体上はもとより精神・心理面よりの各問題からみて、単なる少年の、子どもの教育的な配慮にだけとどまる内容であってはならない。

今まで述べて来たように、その実態よりみてひとり心理学的な基盤だけでなく、社会学的基盤についてもますます研究と問題点の考察が行われねばなるまい、当然である。

次に対策としてはこのシンナー、ボンド等の

有機溶剤の乱用のあり方について、社会問題として、ひとりこれに関わる機関、施設の担当者だけでなく、広く一般社会に（まだよく知られていない、今でもシンナー遊びという風にいられている位である）その事実などが知られねばならない。

筆者の研究不足のため、このシンナー乱用少年らを収容、処遇している試みは、群馬県の太田市にある三枚橋病院（院長石川医博）のことは知っている程度で、他の大方の施設では単にかく離、収容の程度と推察している。一つの遮断療法かも知れない、が更に新しい試み（といつてももう歴史も相当古くなったが）として team work による therapy が望まれるところであろう。

法による規制などもその対策の重要な取り組み方であり（防止、禁止ということ）あのかくせい剤のものすごい勢で拡がりを見せた昭和27年～29年頃の流行とその被害は法的規制でみごと防止し得た実績もある。特に少年にはこのことは重要な問題となり得よう。

## § おわりに

有機溶剤について（シンナー、ボンド等の）以上、その実態とそれに関わる少年の非行の一端について述べた。しかも、医療上に用いられる<sup>＊</sup>くすり、ではなく、文化的、あるいは社会考現学的にみて、この種の薬物の乱用は、今一番問題になっている若者の<sup>＊</sup>自閉、や<sup>＊</sup>現実逃避、などへの好箇の材料、しげきであり、非行・犯罪よりの角度だけでなく広く考究されてよい課題と思われる。その沿革・個人と社会・非行犯罪のあり方など一部紹介して今後の薬物と非行、特に少年期におけるこの種の課題に問題を提供したつもりである。

## 参 考 ・ 引 用 文 献

- 1) 人の統御機能におよぼす薬物の効果について：大山正博，文化第31巻第2号（昭42年10月）P193—1942)

- 2) 麻薬犯罪の社会学的基盤：橋本重三郎，警察学論集第16巻，第7号，昭42年，p93—p97.
- 3) 薬物の心理的效果：台弘，日本応用心理学編心理学講座第6巻Ⅵ，Ⅷ，昭28年，p20—p23.
- 4) 医学的にみ大シンナー遊び：田所作太郎，健康教室第217集，昭43年12月
- 5) シンナー接着剤の毒性：田所作太郎，群馬県青少年協，（薬物乱用防止のしおり）昭44年，
- 6) 有機溶剤の嗜癖：田所作太郎，薬事月刊，昭43年
- 7) 青少年の薬物依存に関する精神病理学的考察：座間味宗和，犯罪と非行，第36号，矯正福祉会，昭55年，p95—p109.
- 8) 薬物乱用の流行，睡眠薬遊びを中心に：逸見武光，児童青少年問題と医学，昭45年，p1—p42.  
（安田生命社会福祉事業団）
- 9) シンナー遊びと非行：小田晋，児童青少年問題と医学，昭45年，p47—p62.（同上）
- 10) 少年の薬物乱用について：税所篤郎，刑政，昭56年3月，p12—p16.
- 11) シンナー不健全使用少年について：島津貞一，西村駒次郎，清水紀代子，刑政，昭43年11月，p78—p83.
- 12) シンナー吸引を常習化させる心理的，環境的要因について：西村駒次郎，島津貞一，清水紀代子，第16回日本矯正医学会，昭44年9月
- 13) 同名，第7回日本犯罪心理学会，昭44年8月
- 14) 薬物依存：NHK市民大学講座不安の時代，竹山恒壽，柳田知司，加賀乙彦，昭47年11月
- 15) 非行少年における有機溶剤酩酊の精神医学的研究：小田晋，精神医学，昭44年11月，11巻11号，p49—p52.
- 16) 薬物依存：大原健士郎，現代の精神医学，誠信書房，p229—p235，p239—p240.
- 17) 薬物乱用と犯罪：法務総合研究所法務研究，第65集，第2号，p121—p124.昭53年8月
- 18) 現代のエスプリ，麻薬：大原健士郎郎編，昭48年10月，p181—p189.
- 19) 薬・宮木高明，岩波新書，昭32年（48年）p177—p185.